白塔歌仙会第四四三回七月例会「雷鳴や庭木一斉」の巻

雷鳴や庭木一斉滴れる　果穂
虹立つらしき児等の歓声　七緒
前を行く水玉きらり髪揺れて　笈羅
サリー閃く頭上の大瓶　加寿女
西風に吹かれて仰ぐ宵の月　悦子
芒の穂影に頬をなでられ　恆雄
ウ　野球帽被る案山子は17番　和子
恋する虫はプレーの妨げ　果
忍び逢う宿に露天のかけ流し　七
どうぞお楽に袴脱いで　笈
無人駅ひとり待つ間の日向ぼこ　加
だれが置いたかベンチに蜜柑　悦
神渡し弦月嬲る群雲や　恆
いじめっこ避けて遠廻りしよ　和
叱られて気分はブルー帰り道　笈
なじみのスナック突き出す飯蛸　七
ほろ酔いの眼にやさし花明り　和
遍路の笠に俤しのぶ　恆
ナオいにしえの聖者の御杖蘖す　悦
ルビーを飾る王妃の柩　加
スペインの海辺のメニュー亀の手でる　果
伸ばしたもののすぐ引っ込める　笈
ながむしの幾重に廻るこの世かな　恆
昼寝覚めても戦は止まず　和
オキシトシン敵と味方を作るとか　七
お気に召します秋駒の騎士　果
林檎食むわが運命の朝迎え　悦
そっと小鳥くる窓開け放ち　加
奏でるは月光の下篠笛か　笈
五条大橋わたる牛若　七
ナウ東山三十六峰晴ればれと　和
歌仙に託す孟冬の宴　恆
唐紙の破れを塞ぐ裕次郎　果
真っ赤に錆びたナイフ見付けた　笈
居合抜き本丸跡は花盛り　加
ふらこに揺れて鎮もる夕べ　悦

連衆：果穂、七緒、笈羅、加寿女、悦子、恆雄、和子
令和五年七月一日 首、令和五年七月八日 尾（文音）